

岡山県感染症週報 2019年 第5週 (1月28日～2月3日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』発令中です

◎岡山県の『腸管出血性大腸菌感染症注意報』は解除になりました (2月5日)

◆2019年 第5週 (1/28～2/3) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第3週 5類感染症 梅毒 1名 (30代 男)
百日咳 1名 (小学生 女)
- 第4週 2類感染症 結核 2名 (40代 男 1名、80代 女 1名)
5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3名 (70代 女 2名、80代 女 1名)
梅毒 6名 (20代 男 2名、女 1名、30代 男 1名、40代 男 1名、
50代 男 1名)
百日咳 1名 (小学生 女)
- 第5週 2類感染症 結核 6名 (30代 男 1名、50代 女 1名、70代 男 2名、
80代 男 1名・女 1名)
5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1名 (70代 女)
百日咳 3名 (小学生 男 1名、中学生 男 1名、40代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 3,135 名 (定点あたり 47.56 → 37.32 人) の報告があり、前週から減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 542 名 (定点あたり 10.57 → 10.04 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第6週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 80 施設でありました (2月4日～7日)。

1. **風しん**の、2019年の累計報告数は2名となりました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。風しんは、妊婦が患うと、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。岡山県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
2. **梅毒**の、2019年の累計報告数は10名となりました。なお、2018年の累計報告数は160名でした。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。また、全国では先天梅毒の報告が相次いでいます。全国や岡山県内の発生状況など詳しくは、「[今週の注目感染症②](#)」および[コラム](#)をご覧ください。
3. **百日咳**は、2019年第5週に3名(倉敷市、備中地域、美作地域、各1名)の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は187名で年代別では小学生、6歳以下の乳幼児の順に多く報告され、地域別では備中地域、倉敷市、岡山市の順に多く報告されました。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
4. **インフルエンザ**は、県全体で3,135名(定点あたり47.56→37.32人)の報告があり、前週から減少しました。岡山県は、1月24日に『**インフルエンザ警報**』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(56.81人)、真庭地域(52.33人)、岡山市(37.41人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2018 / 2019年シーズン インフルエンザ情報 「インフルエンザ警報」発令中!](#)』をご覧ください。
5. **感染性胃腸炎**は、県全体で542名(定点あたり10.57→10.04人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域(13.25人)、倉敷市(12.91人)、美作地域(10.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は2018年12月13日に「**食中毒(ノロウイルス)注意報**」を発令し、食中毒予防を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2018/2019年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。

6. 岡山県は、2018年6月19日に『腸管出血性大腸菌感染症注意報』を発令し、注意喚起を図ってきましたが、患者等の発生数が2ヶ月連続して5名以下となりました。今後は、例年発生が少ない時期を迎えることから、注意報を2019年2月5日に解除しました。注意報は解除になりましたが、食品の十分な加熱処理、調理前や食事前の手洗いなど、ひきつづき食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★★	細菌性髄膜炎		
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		★

【記号の説明】 前週からの推移：
：大幅な増加
：増加
：ほぼ増減なし
：減少
：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症①

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

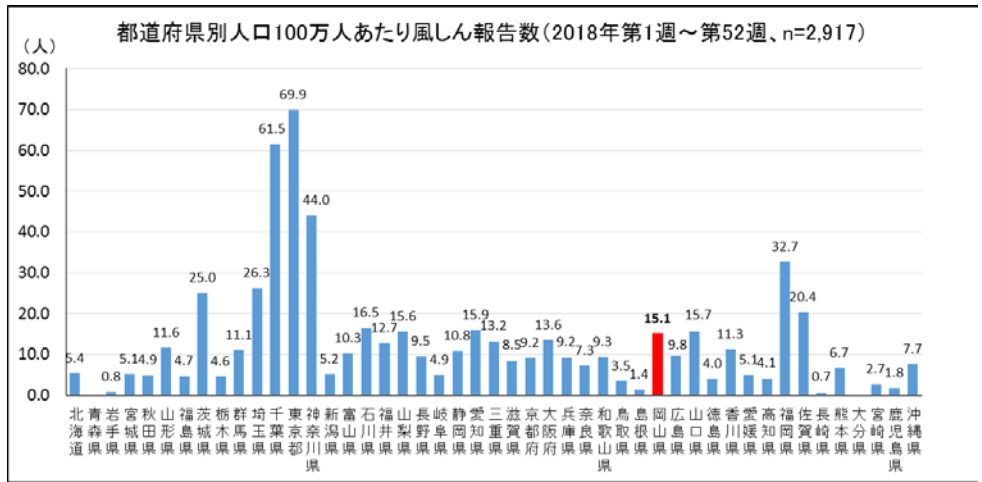
感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

風しんは、2018年に全国的に流行しました（2018年の全国の風しん届出数：2,917名。直近3年間では年間93～163名）。中国・四国地方では、岡山県：29名、広島県：28名、山口県：22名、香川県：11名、愛媛県：7名などが報告されました。

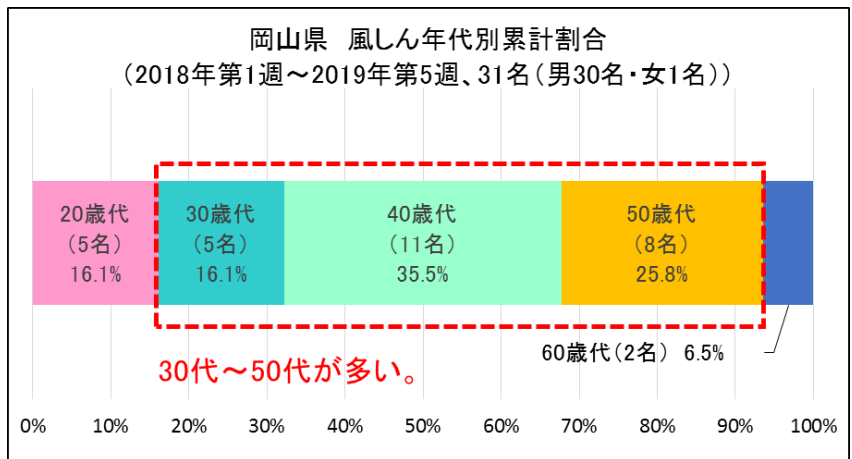
患者は、男性が女性の4.3倍と多くを占めており、中でも抗体価が低いとされる、30代～50代の男性が中心となっていました（男性患者全体の約8割）。

2018年第52週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で22.9人となり、東京都が69.9人で最も多く、次いで千葉県の61.5人、神奈川県44.0人、福岡県32.7人、埼玉県26.3人と続いています。岡山県は、人口100万人あたり15.1人となりました。



岡山県では、2018年の累計で29名(男性28名、女性1名)の報告があり、年代別では40歳代が11名、50歳代が7名、30歳代が5名の順で多く報告されました。

2019年は第3週に1名(50歳代男性)、第4週に1名(20歳代男性)の報告があり、2018年から始まった風しんの全国的な流行における岡山県での患者累計(2019年第5週まで)は31名となりました。



2018年には事業所における発症事例が複数ありましたが、2019年も継続している事例があります。

●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。全国では、2019年第4週に、1名の先天性風しん症候群の発生報告がありました。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。岡山県でも、全国の状況と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」

[生まれてくる赤ちゃんのために風しん抗体検査を受けましょう](#)
(岡山県健康推進課)

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう

岡山県(岡山県・倉敷市以外)、
岡山市・倉敷市では、風しん抗体検査を
無料
で実施しています。

妊娠初期の妊婦さんが風しんにかかると、
生まれてくる赤ちゃんに感染することがあります。
風しんは予防接種で予防できます。

無料抗体検査対象者で、電歴又は予防接種履歴が明らかでない方は、予防接種が必要かどうかを調べるため、抗体検査を受けましょう。
特に妊娠37年度～平成元年度生まれの妊婦と妊娠54年度～平成元年度生まれの妊婦は、十分な検査がないことが多いとされています。

無料抗体検査対象者

岡山県内に在籍し、次のいずれかに該当する方
 (1) 妊娠を希望する女性とその配偶者
 (2) 風しんの抗体価が低い妊婦の妊婦者

※1歳未満の子、計画的に風しんワクチン接種を受けたことがない方、既往に風しんの中等症以上の発症歴がある方、
 既往に中等症以上の発症歴がある方以外の孕歴が不明な方は検査の対象とはなりません。

検査するお宅

○住所がわかる公的書類(健康保険証、運転免許証など)
 「風しん抗体価が低い妊婦の妊婦者」は、妊婦の風しん抗体価が健常である書類
 (身体検査結果通知書、産科検診結果通知書など)

※お持ちの公的書類については、詳しくは本案内のHPをご覧ください。

岡山県・倉敷市以外に在住の方	風しんの検査・抗体検査	無料
岡山市の公的書類をお持ちの方	風しんの検査・抗体検査	無料
倉敷市に在住の方	風しんの検査・抗体検査	無料

※母体の病歴、妊婦歴が明らかと認められた場合は、予防接種を受けることを検討してください。予防接種を受けて
 胎児が持つこともあります。(胎児にダメージは、ほぼありません。詳しくは受けたいのかを医師に相談し、
 風しんに対する先立検査を持っている人の割合が全国的に高くなること、地域での風しん感染に気が付きます。

岡山県健康推進課 岡山県健康推進課 086-226-7331



©岡山県「ももっち・うらっち」

風しんの予防について

岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

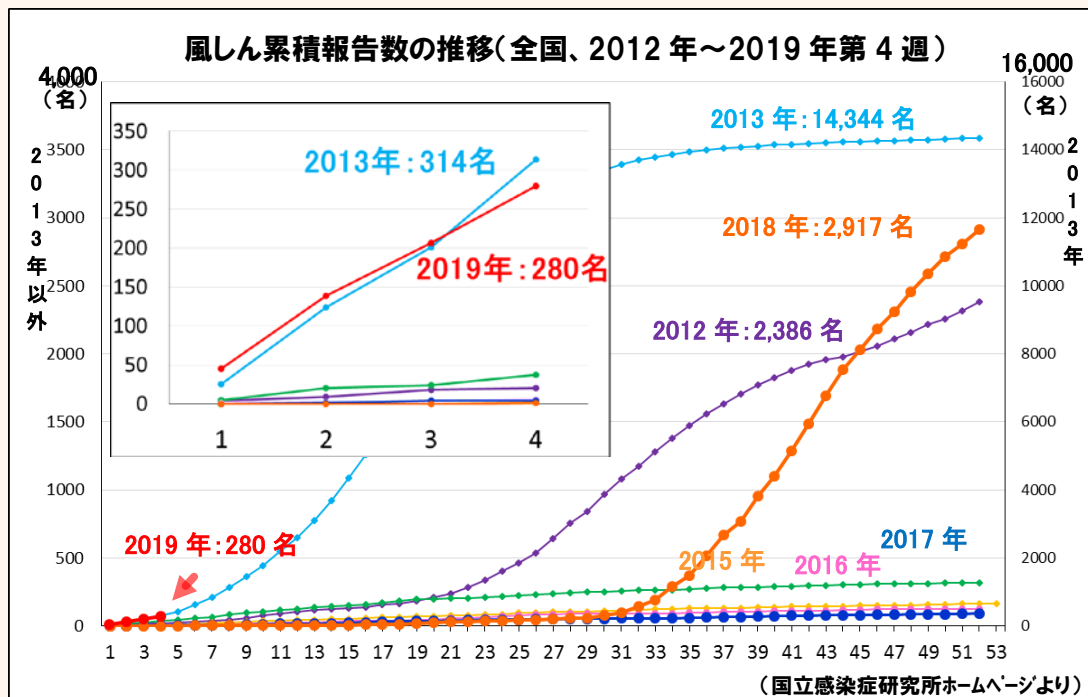
検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。



詳細は… [風疹急増に関する緊急情報\(2018、2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)
[風疹とは \(国立感染症研究所\)](#)
[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

今週の注目感染症②

★梅毒

●発生状況

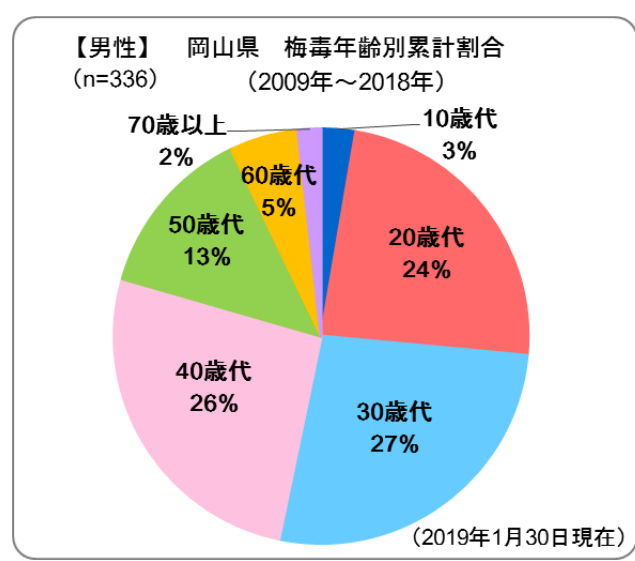
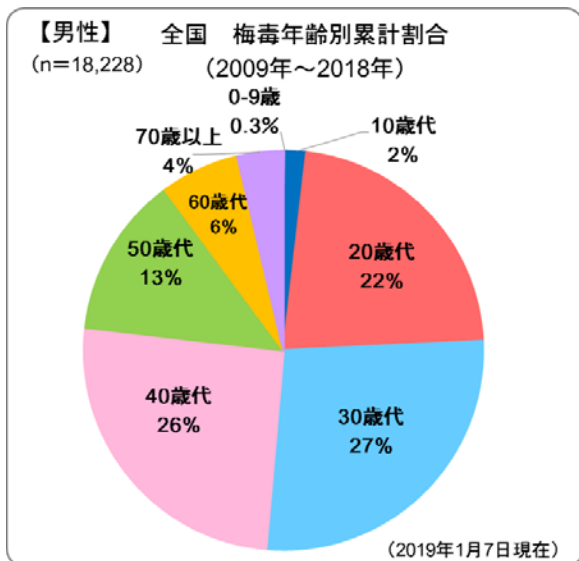
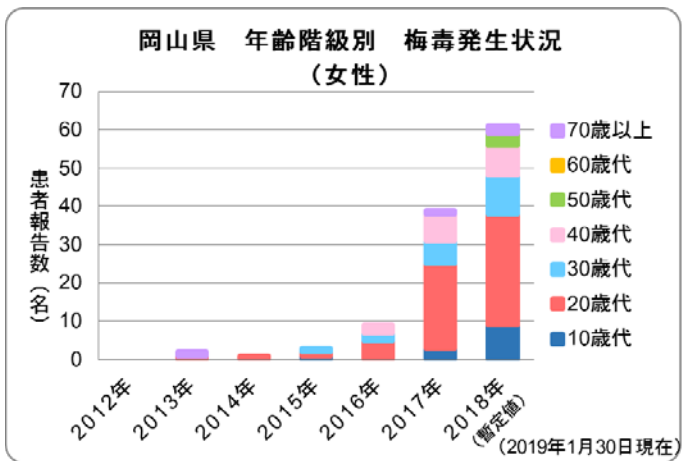
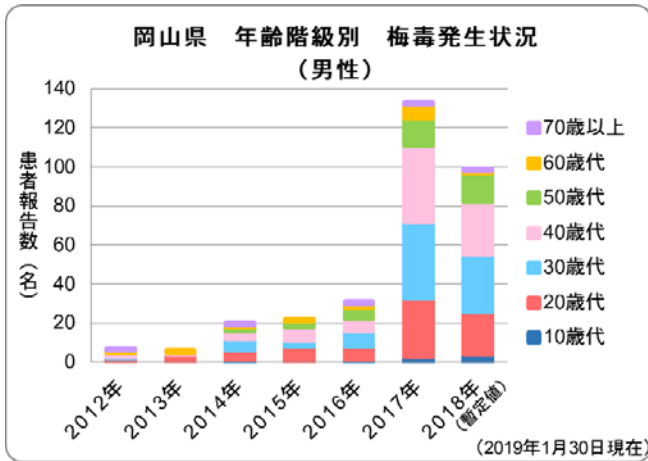
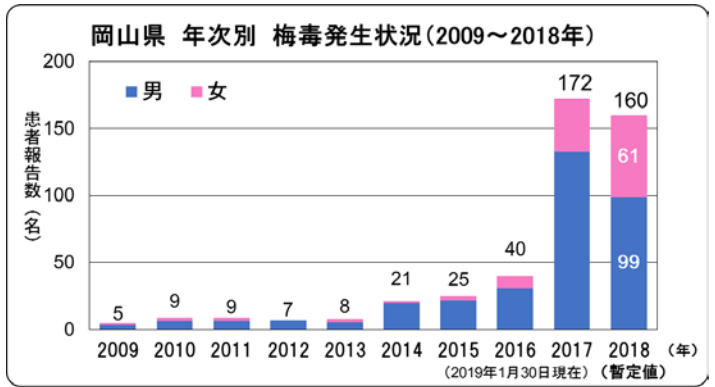
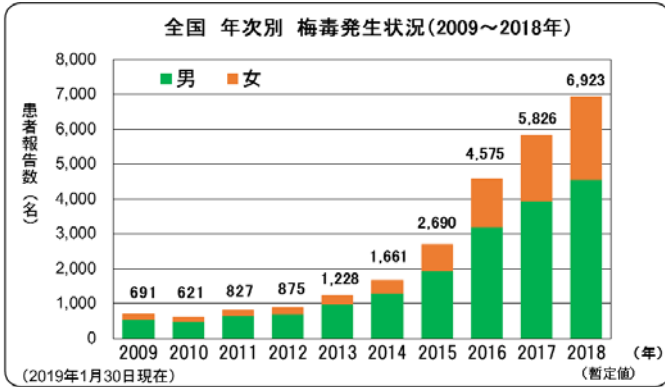
梅毒患者の報告数は、近年全国的に増加しており、2018年は、概ね7,000名となりました。

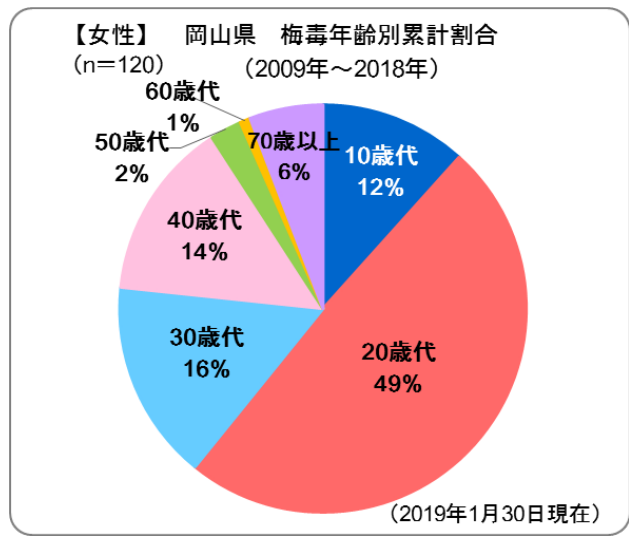
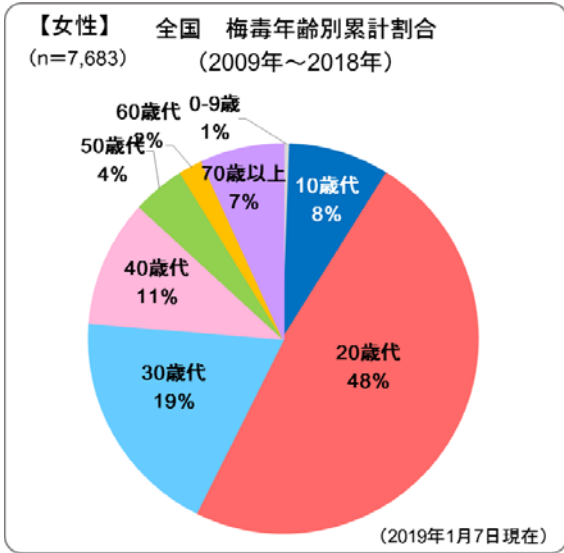
また、全国では先天梅毒の発生報告が相次いでいます。

(2017年：9名、2018年：17名、2019年第5週まで(速報値)：2名)

岡山県においては、2017年から急激に報告数が増加し、2018年(暫定値)も同様に160名と多くの報告がありました。2017年と比較すると、10代・20代の女性の割合が増加しています。

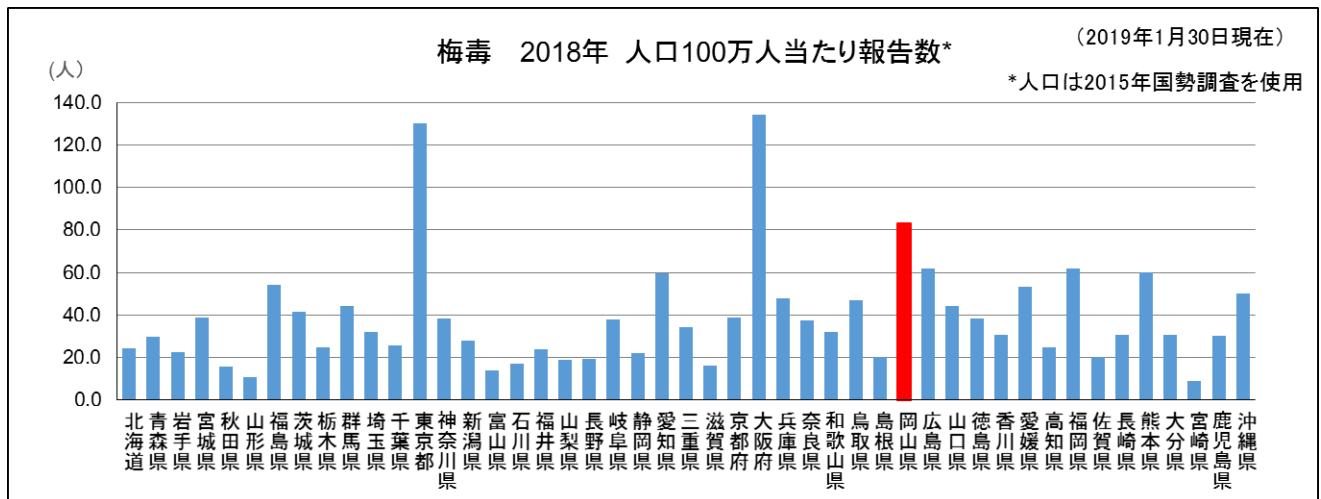
(2017年：患者全体の14.5%→2018年：23.8%)





なお、全国と岡山県の年齢別累計割合（2009年～2018年）については、上記グラフのとおりであり、全国と岡山県の状況はほぼ同じでした。

人口100万人当たりの梅毒患者報告数でみると、岡山県は全国でも上位を占めています。第4四半期（2018年10月～12月）では全国で12位（第3四半期は全国3位）でしたが、報告数は依然として多く、2018年一年間を通じては、全国で3位となり、ひきつづき注意が必要な状況です。



2018年の人口100万あたり報告数 上位10位の自治体 (第4四半期)

順位	自治体	患者報告数	人口100万あたり報告数
1	東京都	445	32.93
2	大阪府	288	32.58
3	熊本県	40	22.38
4	福岡県	82	16.07
5	福島県	30	15.67
6	山口県	22	15.66
7	兵庫県	77	13.91
8	愛知県	104	13.90
9	広島県	38	13.36
10	徳島県	10	13.23
11	愛媛県	17	12.27
12	岡山県	23	11.97

2019年1月7日現在

2018年の人口100万あたり報告数 上位10位の自治体

順位	自治体	患者報告数	人口100万あたり報告数
1	大阪府	1,186	134.18
2	東京都	1,759	130.16
3	岡山県	160	83.25
4	福岡県	316	61.92
5	広島県	176	61.86
6	熊本県	107	59.88
7	愛知県	447	59.73
8	福島県	104	54.34
9	愛媛県	74	53.39
10	沖縄県	72	50.21

2019年1月30日現在暫定値

岡山県の保健所・支所での梅毒等の性感染症検査についてはコラムをご覧ください。

⇒コラム「梅毒（性感染症）に気をつけましょう！」



梅毒トレポネーマの
電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

セーフセックスをこころがけて、 **梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！**

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

梅毒患者の報告数は、近年、全国的に増加しており、2018年は、1970年以来48年ぶりに6,000名を超え、概ね7,000名となりました（2017年：5,826名⇒2018年：6,923名）。

岡山県では梅毒患者の報告数がこの2年間で急増しました（2016年：40名、**2017年：172名、2018年：160名**）。中でも10代・20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です（2017年は**患者全体の14.5%**⇒2018年は**23.8%**）。

●「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたします（早期顕症梅毒）。一方症状の見られない時期もあり（無症候）、多様な症状を示すのが特徴です。進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障がいをもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障がいをきたします（先天梅毒）。

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する病原体は梅毒トレポネーマ以外にも、例えばHIV、性器クラミジア、ヘルペス、淋菌など多くあります。これらによる感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

- *岡山県の保健所（岡山市・倉敷市を除く）では、梅毒以外にもHIV・性器クラミジア・B型肝炎・C型肝炎の検査も同時に受けることができます。
- *検査は無料・匿名で受けることができます。
- *通常検査では1週間後、迅速検査では1時間後に結果をお知らせしています。
- *確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月たって検査することをおすすめします。
- *事前に電話で予約が必要です（保健所によっては予約不要の日時もあります）。

○県内11か所の保健所・支所における性感染症等検査の日時、予約方法はこちらから

→ [【平成30年度 保健所におけるHIV検査・性感染症検査・肝炎検査日時】](#)

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

注意喚起情報～三重県などで麻しん感染拡大

※三重県で麻しん（はしか）の感染患者が確認されています！

三重県では、2019年1月初旬から麻しんの集団感染が発生しており、2019年2月5日時点で感染者数は49名にのぼっています。

（詳しくは、[三重県医療保健部薬務感染症対策課ホームページ](#)を参照ください。）

すでに岐阜県、和歌山県等に感染が拡大しており、大阪府等他府県での感染拡大が懸念されるなど、今後さらに感染地域が広がる可能性があります。麻しん感染が重症化しやすい小学校入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください。（この年代では定期接種2回となっていますので、母子手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください。）

[麻しんについて（厚生労働省）](#)

インフルエンザ週報 2019年 第5週 (1月28日～2月3日)

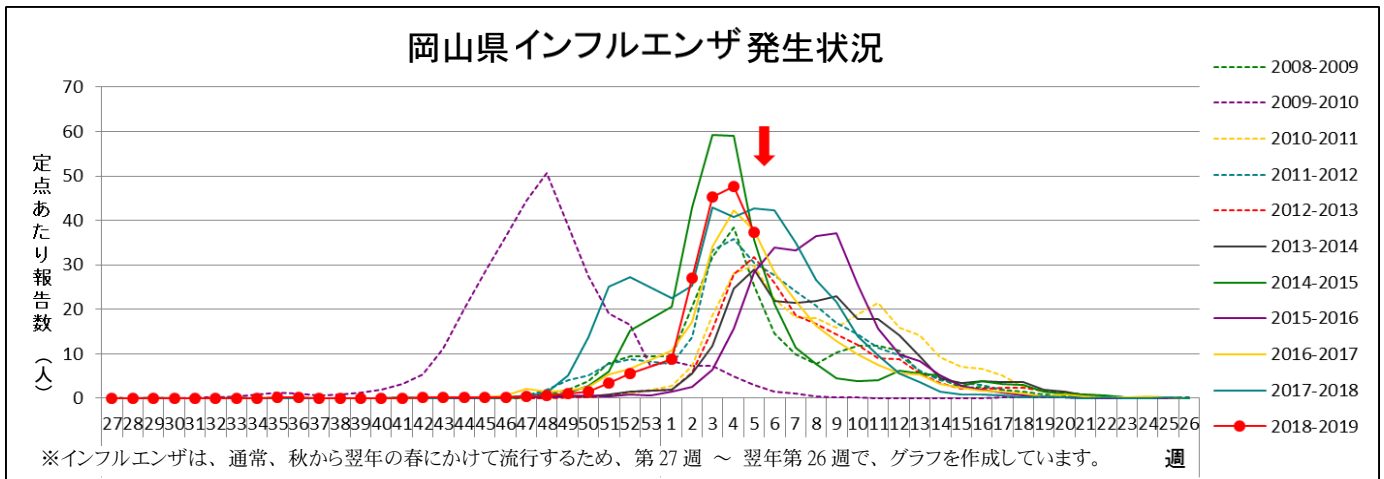
岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で3,135名（定点あたり37.32人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が147施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者34名の報告がありました。

【第6週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が80施設でありました（2月4日～7日）。



インフルエンザは、県全体で3,135名（定点あたり47.56 → 37.32人）の報告があり、前週から減少しました。岡山県は、1月24日に『インフルエンザ警報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市（56.81人）、真庭地域（52.33人）、岡山市（37.41人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山市、倉敷市、備前地域、備中地域、真庭地域で発生レベル3が継続し、備北地域、美作地域で発生レベル2が継続しています。学校等の臨時休業は、前週（196施設）より減少し、第5週は147施設から報告がありました。しかしながら、第6週（2/4～）速報でも、未だ多くの施設から報告されているため、ひきつづき幼稚園・小学校・中学校を中心とした集団の中での感染に注意してください。

今後とも県内の発生状況に注意するとともに、『帰宅後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避ける』、『マスクを着用する』、『十分な睡眠をとる』など、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど、咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザの流行が継続しています。

いっそうの感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- ・ 帰宅後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 人混みに入る場合は、マスクを着用しましょう。特に高齢者や慢性疾患を持っている人などは、人混みを避けましょう。
- ・ 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- ・ 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。

【 かかったかな? という時には 】

- ・ 早めに医療機関を受診しましょう（受診時はマスクを着用してください）。
- ・ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。
- ・ 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。
- ・ 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

1. 地域別発生状況
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	3,135	▲	備 中	患者数	406	▲
	定点あたり	37.32			定点あたり	33.83	
岡山市	患者数	823	▲	備 北	患者数	147	▲
	定点あたり	37.41			定点あたり	24.50	
倉敷市	患者数	909	▲	真 庭	患者数	157	▲
	定点あたり	56.81			定点あたり	52.33	
備 前	患者数	438	▲	美 作	患者数	255	▲
	定点あたり	29.20			定点あたり	25.50	

【記号の説明】 前週からの推移

▲：大幅な増加 ▲：増加 ➡：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ▽：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

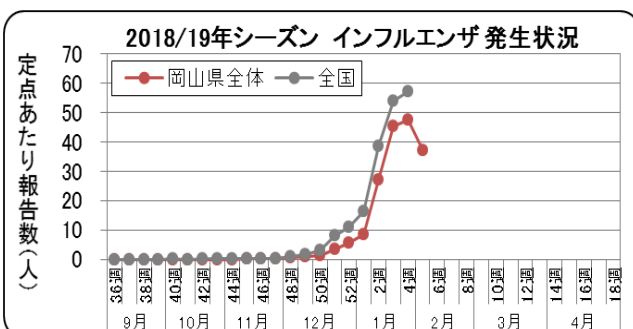
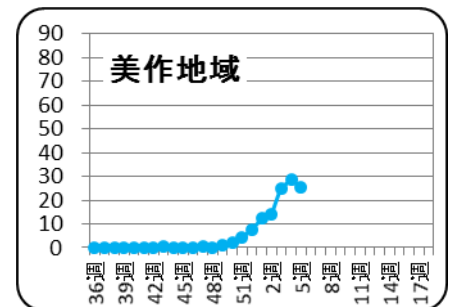
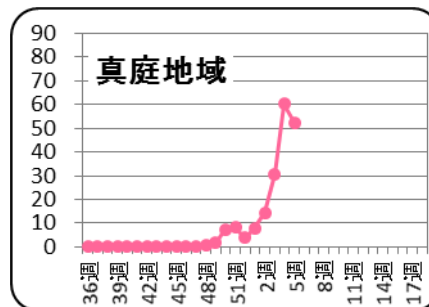
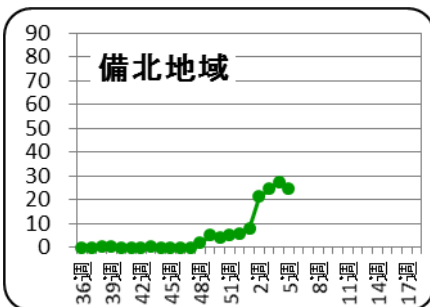
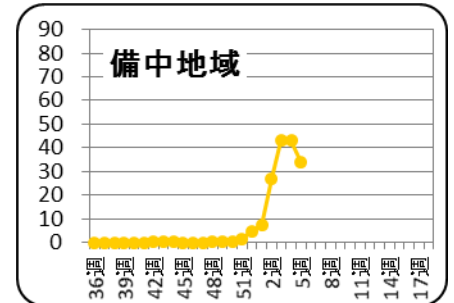
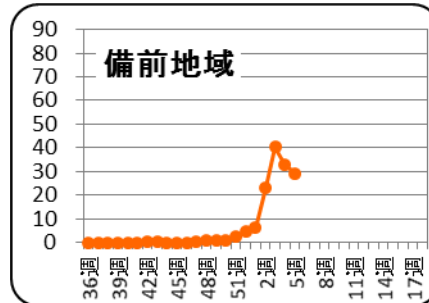
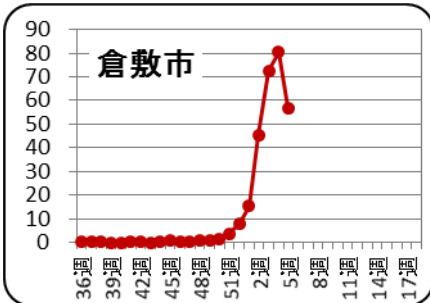
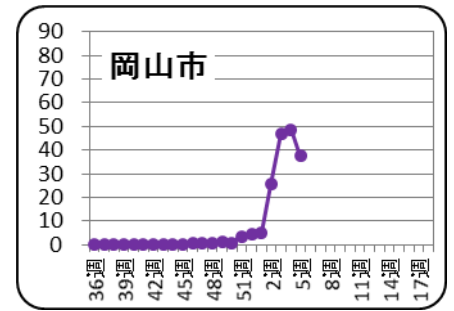
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 < 10 未満	0

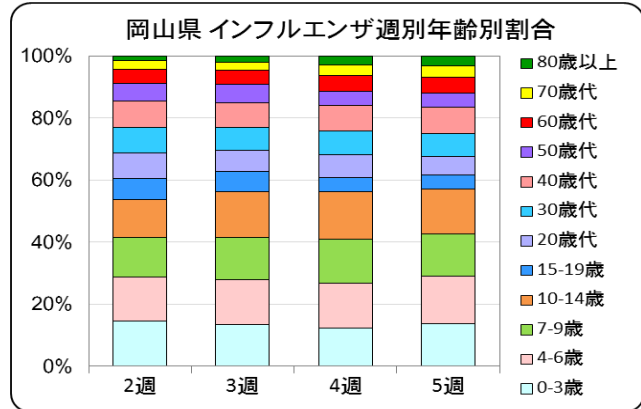
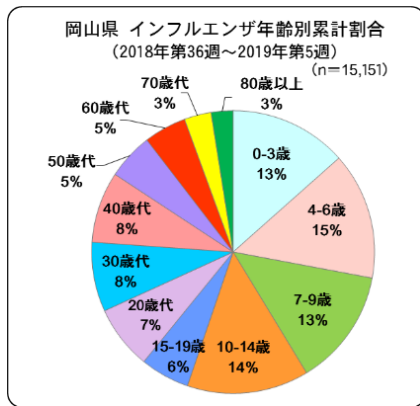


全国集計 2019 年第 4 週（1/21～1/27）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 57.09 人となり、前週（53.91 人）から増加しました。都道府県別では、埼玉県（84.09 人）、新潟県（77.70 人）、千葉県（73.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。全都道府県で定点あたり報告数が 30.00 人を超えました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

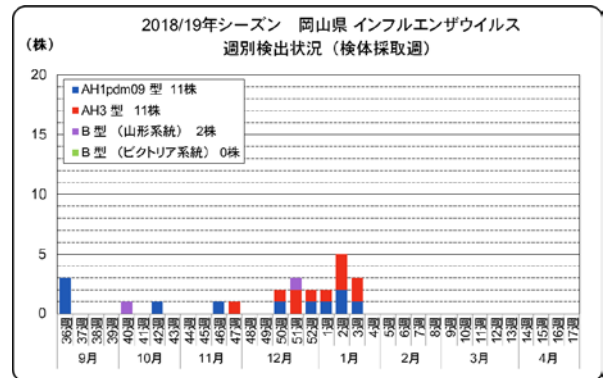
2. 年齢別発生状況

0歳から14歳までで約半数（55%）を占めていますが、広い年齢層で報告されています。



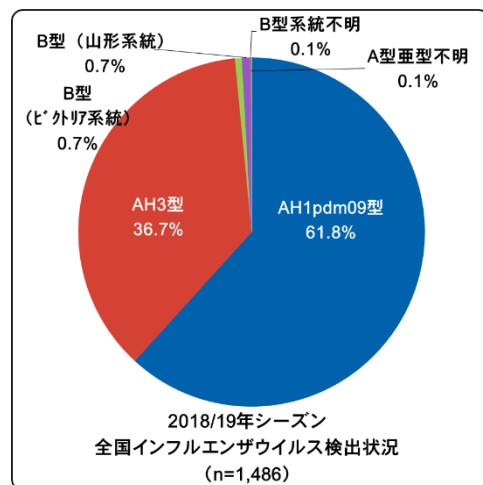
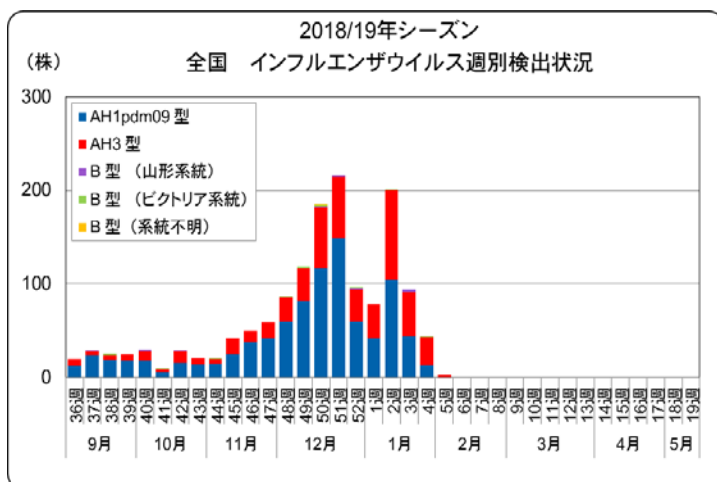
3. インフルエンザウイルス検出状況

2019年第5週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは24株で、その内訳は、AH1pdm09型11株、AH3型11株、B型（山形系統）2株となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が918株、AH3型が545株、B型が22株（山形系統11株・ビクトリア系統10株・系統不明1株）、A型亜型不明1株となっています（2月4日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)



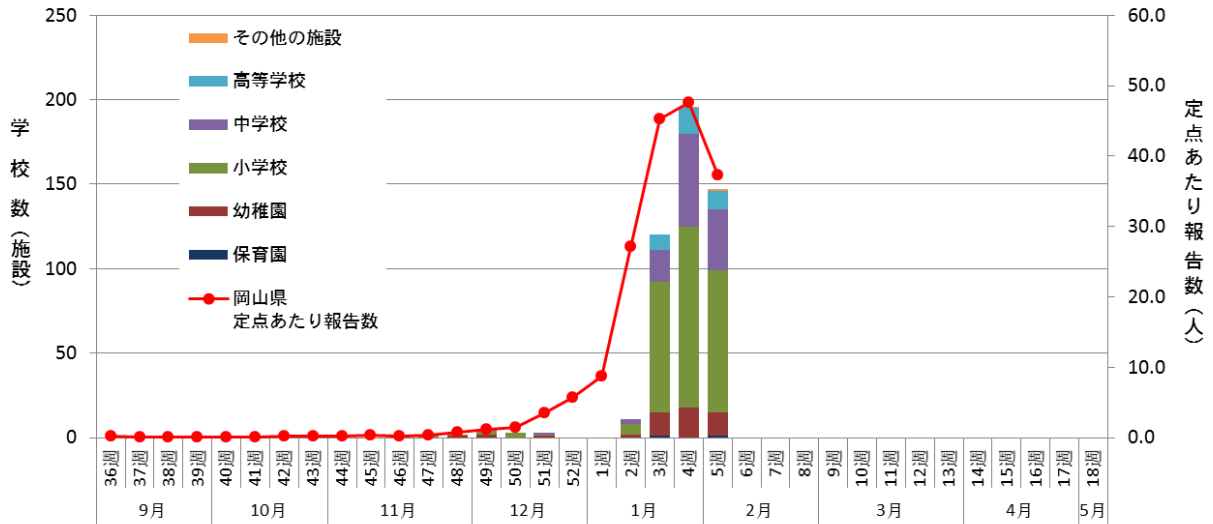
4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、147施設でありました。

【第5週 臨時休業施設数】

▽岡山市	51	▽倉敷市	32	▽津山市	9	▽玉野市	7	▽笠岡市	4
▽井原市	6	▽総社市	5	▽高梁市	3	▽新見市	2	▽備前市	1
▽瀬戸内市	2	▽赤磐市	3	▽真庭市	3	▽美作市	1	▽浅口市	7
▽和気町	1	▽早島町	5	▽里庄町	1	▽矢掛町	1	▽勝央町	1
▽奈義町	1	▽美咲町	1						

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業 週別発生状況



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	2052	7312	1635	5903	147	492	1	6	39	109	107	377	H30.9.26
岡山市	746	3290	612	2616	51	204	—	—	6	17	45	187	H30.9.26
倉敷市	503	1693	425	1458	32	111	0	1	4	18	28	92	H30.11.12
備前地域	173	558	137	470	14	43	0	1	5	17	9	25	H31.1.10
備中地域	344	961	279	796	30	78	0	1	11	29	19	48	H30.12.13
備北地域	45	102	31	63	4	9	—	—	4	7	0	2	H31.1.15
真庭地域	29	69	22	46	3	7	0	1	1	2	2	4	H31.1.17
美作地域	212	639	129	454	13	40	1	2	8	19	4	19	H30.12.6

2) 臨時休業施設数の内訳

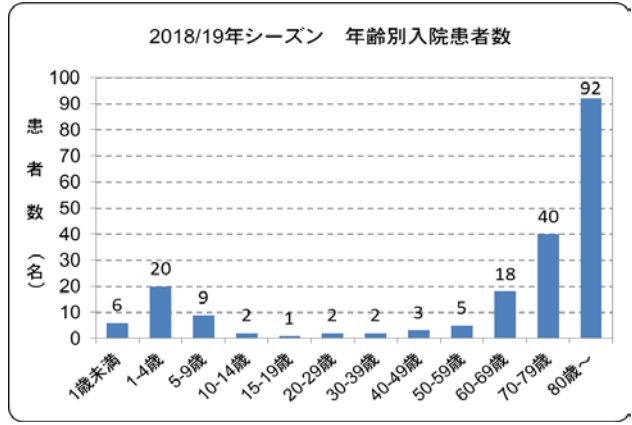
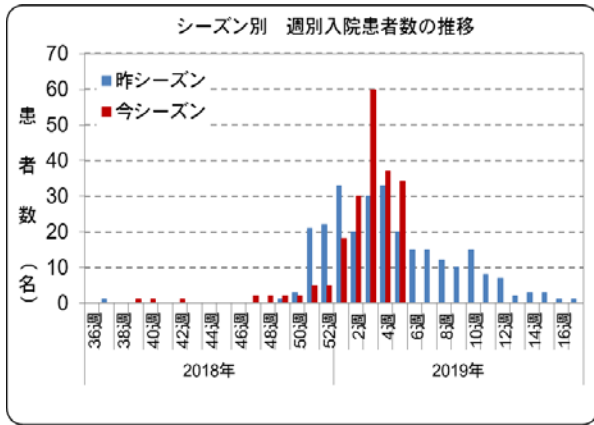
第5週：147施設 累計：492施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	1	2	14	53	84	284	36	116	11	35	1	2

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、34 名（1 歳未満 1 名、1-4 歳 4 名、5-9 歳 2 名、10-14 歳 1 名、40-49 歳 1 名、50-59 歳 2 名、60-69 歳 1 名、70-79 歳 5 名、80 歳以上 17 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 5 週 入院患者報告数】

年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計*
入院患者数	1	4	2	1				1	2	1	5	17	34
ICU 入室 *								1			1	1	3
人工呼吸器の利用 *								1			1	3	5
頭部 CT 検査(予定含) *													
頭部 MRI 検査(予定含) *		2	2	1									5
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず	1	2							2	1	4	14	24

* 重複あり

【2018 年 9 月 3 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1~4 歳	5~9 歳	10~14 歳	15~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計
入院患者数	6	20	9	2	1	2	2	3	5	18	40	92	200
ICU 入室 *		1						1		1	3	1	7
人工呼吸器の利用 *		2						1		1	1	6	11
頭部 CT 検査(予定含) *		2				1				3	3	4	13
頭部 MRI 検査(予定含) *		3	3	1	1						4	1	13
脳波検査 (予定含) *													
いずれにも該当せず	6	15	6	1		1	2	2	5	14	33	82	167

* 重複あり

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成 30 年度 今冬のインフルエンザ総合対策について \(厚生労働省\)](#)

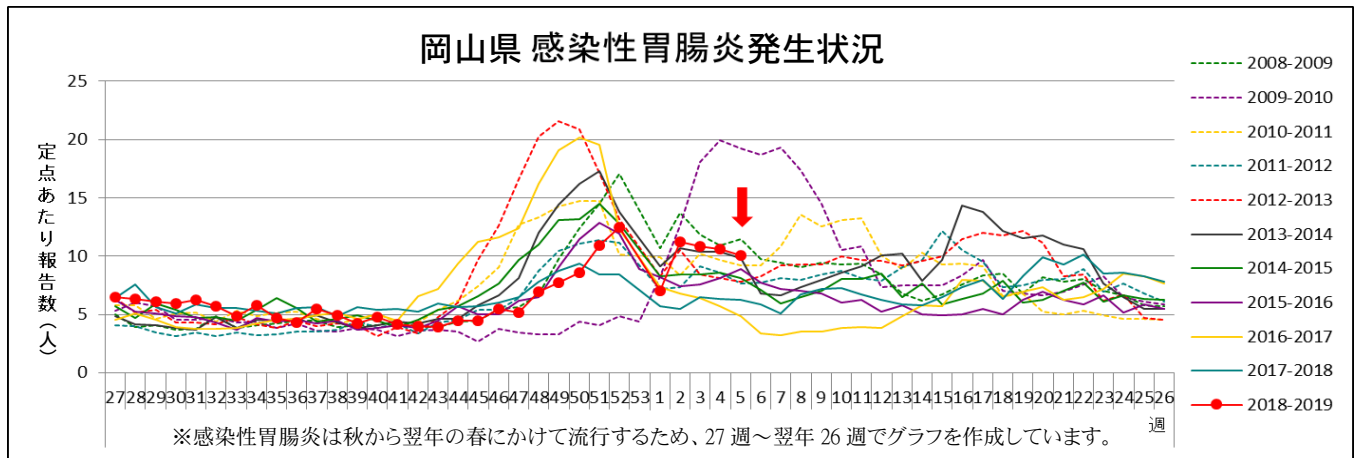
[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株 \(国立感染症研究所\)](#)

感染性胃腸炎週報 2019年 第5週 (1月28日～2月3日)

岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』発令中です

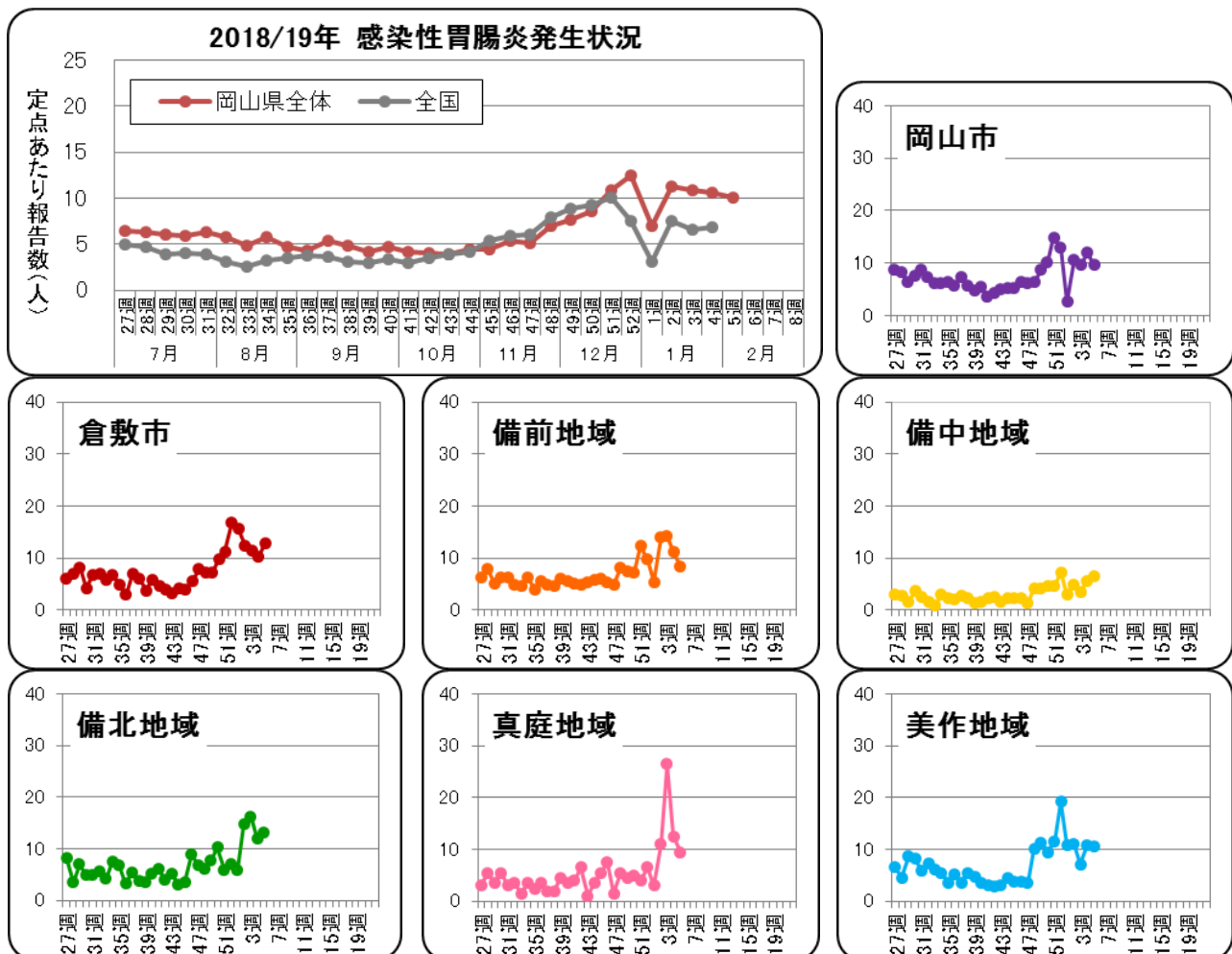
➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で542名（定点あたり10.04人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。



感染性胃腸炎は、県全体で542名（定点あたり10.57 → 10.04人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。特に乳幼児や高齢者は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

◆地域別・年齢別発生状況

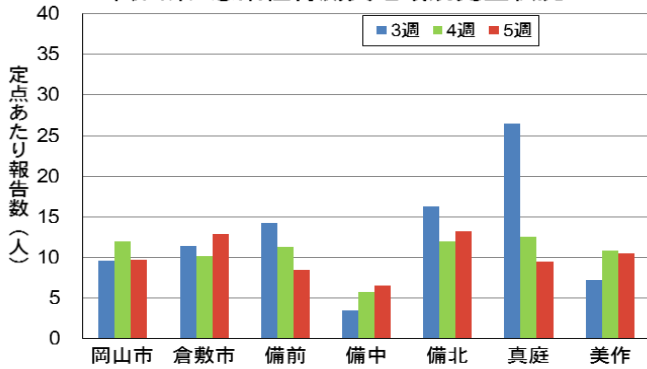




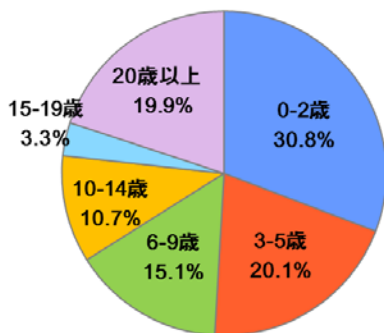
全県レベル1			
レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。

岡山県 感染性胃腸炎地域別発生状況



感染性胃腸炎 年齢別割合 (第5週)



2019年5週報告の年齢別割合は、15歳未満の小児がおおよそ80%を占めています。

◆◆ 感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

<予 防 方 法>

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。

拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水処理**または**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85~90℃で90秒間以上)

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。また、アルコールの効果は低いとされています。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2019年 5週(定点把握)

(2019/01/28~2019/02/03)

2019年2月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3135	37.32	823	37.41	909	56.81	438	29.20	406	33.83	147	24.50	157	52.33	255	25.50
RSウイルス感染症	17	0.31	7	0.50	6	0.55	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	7	0.13	-	-	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	1.59	29	2.07	26	2.36	8	0.80	9	1.29	7	1.75	2	1.00	5	0.83
感染性胃腸炎	542	10.04	135	9.64	142	12.91	84	8.40	46	6.57	53	13.25	19	9.50	63	10.50
水痘	8	0.15	2	0.14	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	2	0.33
手足口病	5	0.09	2	0.14	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	9	0.17	2	0.14	4	0.36	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	6	0.11	1	0.07	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	-	-	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 5週(発生レベル設定疾患) (2019/01/28~2019/02/03)

2019年2月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	3135	37.32	823	37.41	909	56.81	438	29.20	406	33.83	147	24.50	157	52.33	255	25.50
咽頭結膜熱	7	0.13	-	-	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	5	0.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	1.59	29	2.07	26	2.36	8	0.80	9	1.29	7	1.75	2	1.00	5	0.83
感染性胃腸炎	542	10.04	135	9.64	142	12.91	84	8.40	46	6.57	53	13.25	19	9.50	63	10.50
水痘	8	0.15	2	0.14	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	1	0.50	2	0.33
手足口病	5	0.09	2	0.14	2	0.18	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	9	0.17	2	0.14	4	0.36	-	-	3	0.43	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	0.07	-	-	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	-	-	3	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第5週 2019/01/28～2019/02/03)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	3135	11	37	132	131	122	150	176	153	139	153	134	450	148	183	234	259	144	162	115	102

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	17	4	5	5	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	-	1	3	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	86	-	-	4	3	5	17	11	13	9	3	6	7	-	8
感染性胃腸炎	542	6	26	75	60	39	38	32	30	16	17	19	58	18	108
水痘	8	-	-	-	1	1	1	-	-	-	3	-	2	-	-
手足口病	5	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	9	-	-	1	-	-	1	2	1	1	3	-	-	-	-
突発性発疹	6	-	2	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	4	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

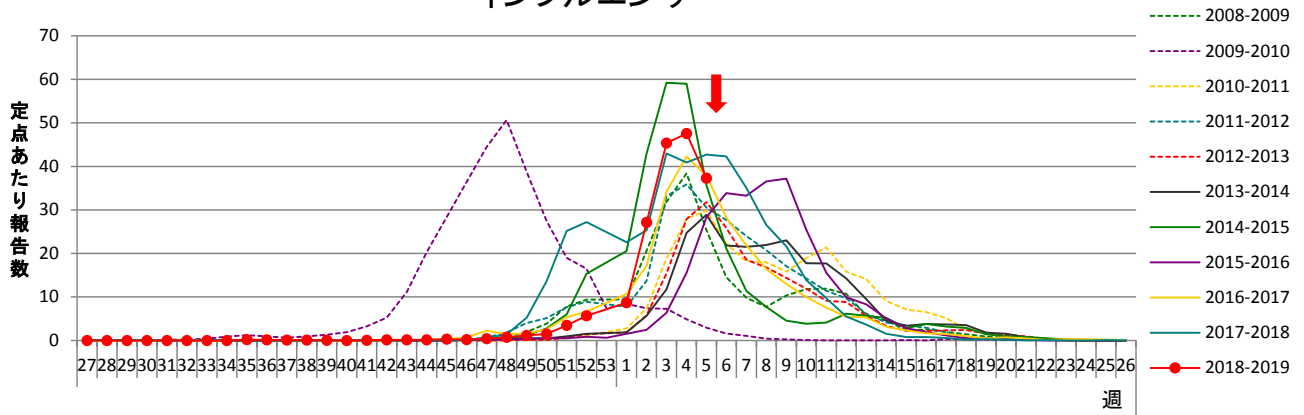
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

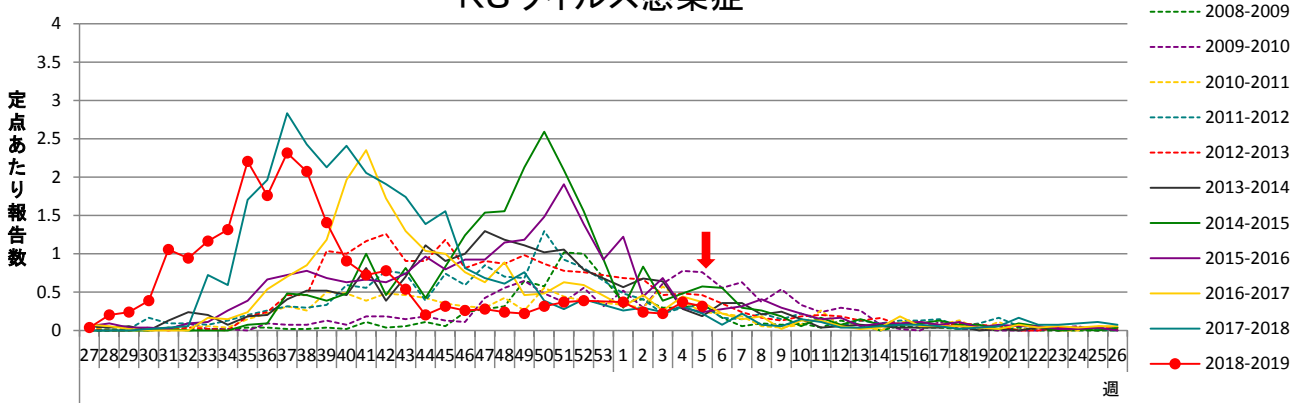
2019年 5週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	6	26	335	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	1	70	
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5	
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	5	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1	マラリア	-	-	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	2	83	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	-	15	ウイルス性肝炎	-	-	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	5	26
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	急性脳炎	-	1	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	14	後天性免疫不全症候群	-	1	18	
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	
侵襲性肺炎球菌感染症		1	5	45	水痘(入院例に限る。)	-	-	3	先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		-	10	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	2	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	3	20	187	
風しん		-	2	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

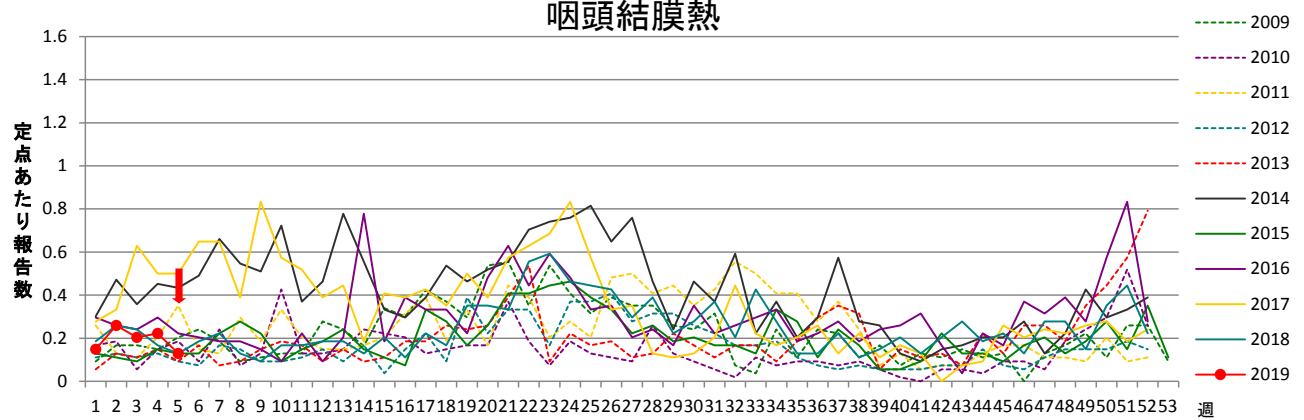
インフルエンザ



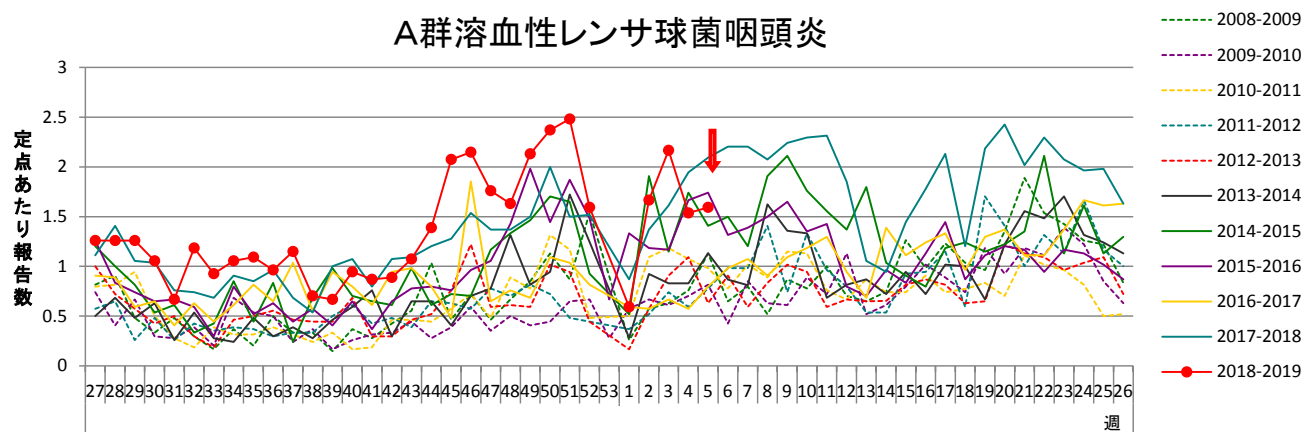
RSウイルス感染症



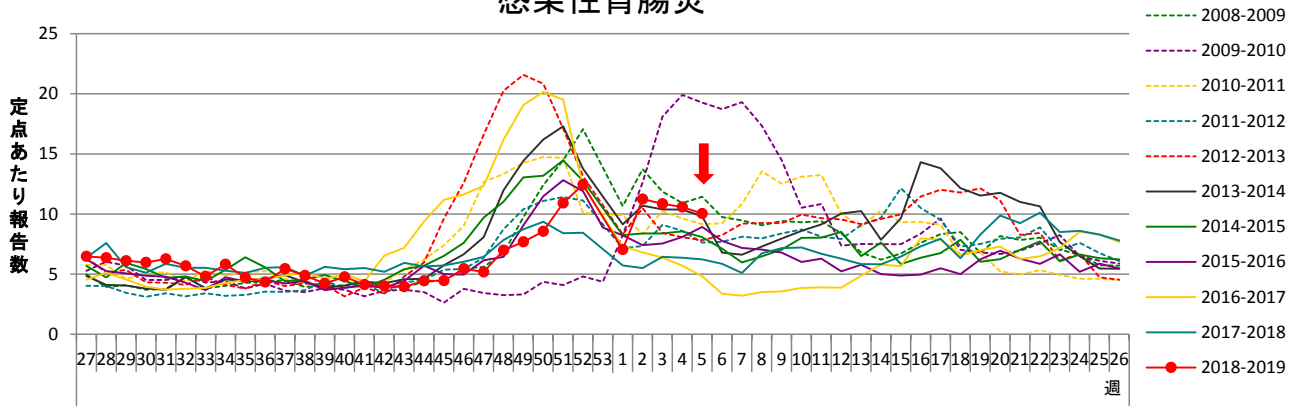
咽頭結膜熱



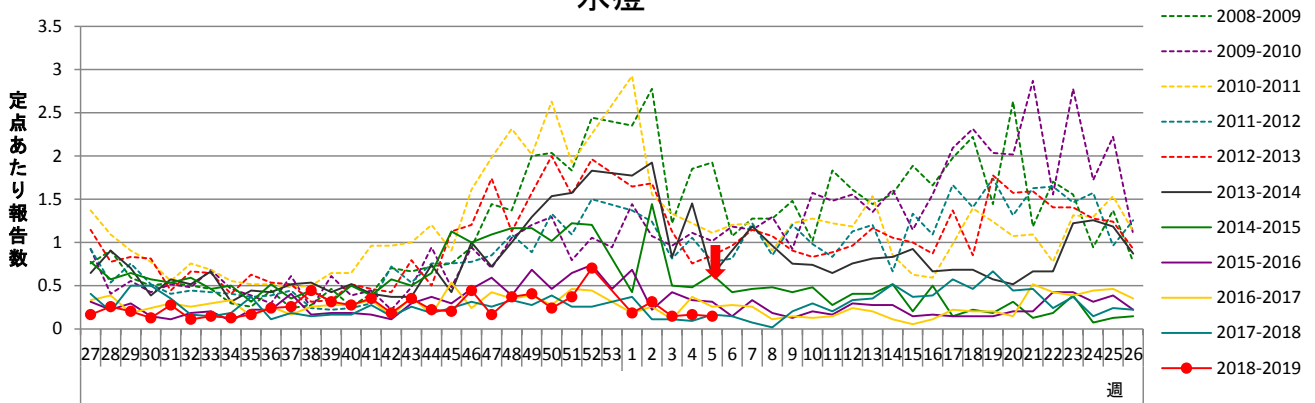
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



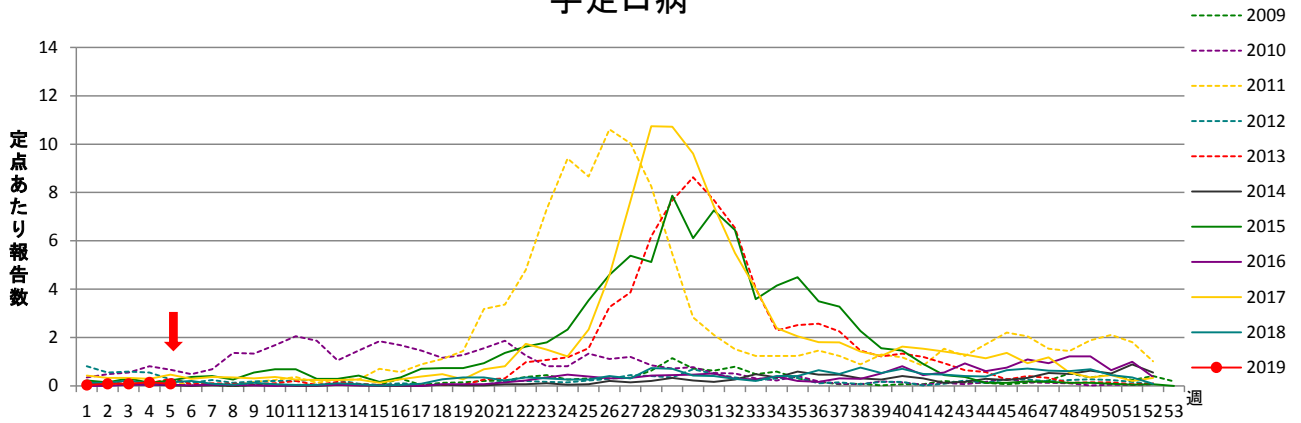
感染性胃腸炎



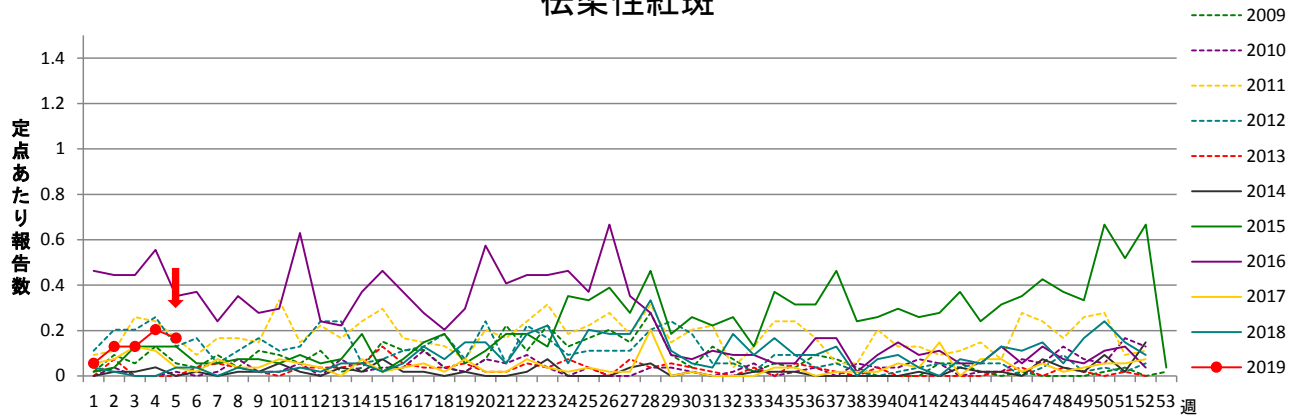
水痘



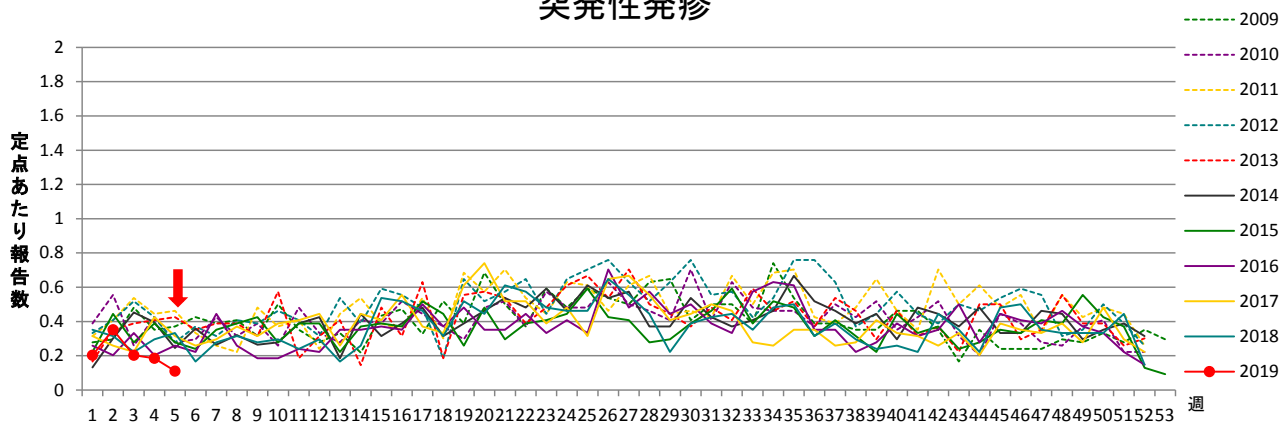
手足口病



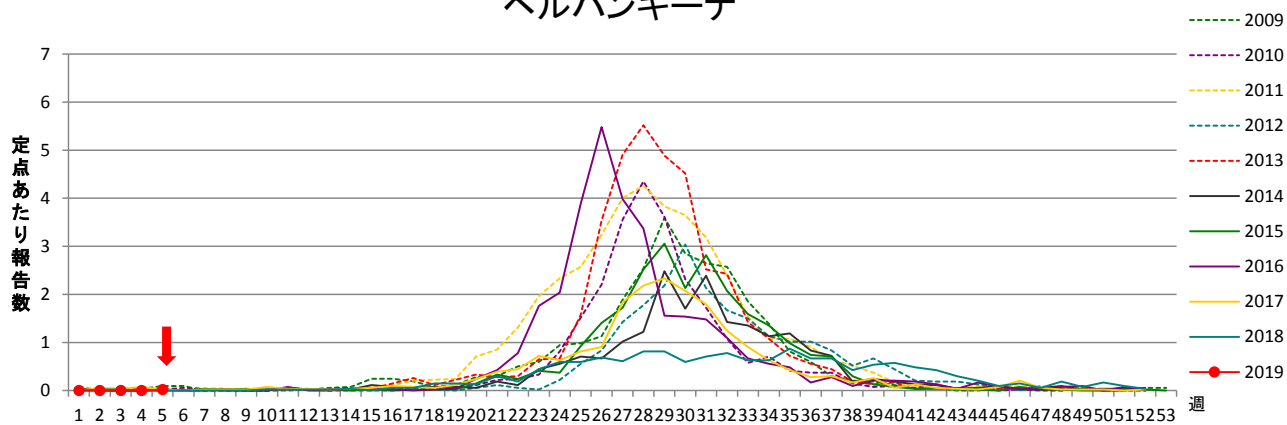
伝染性紅斑



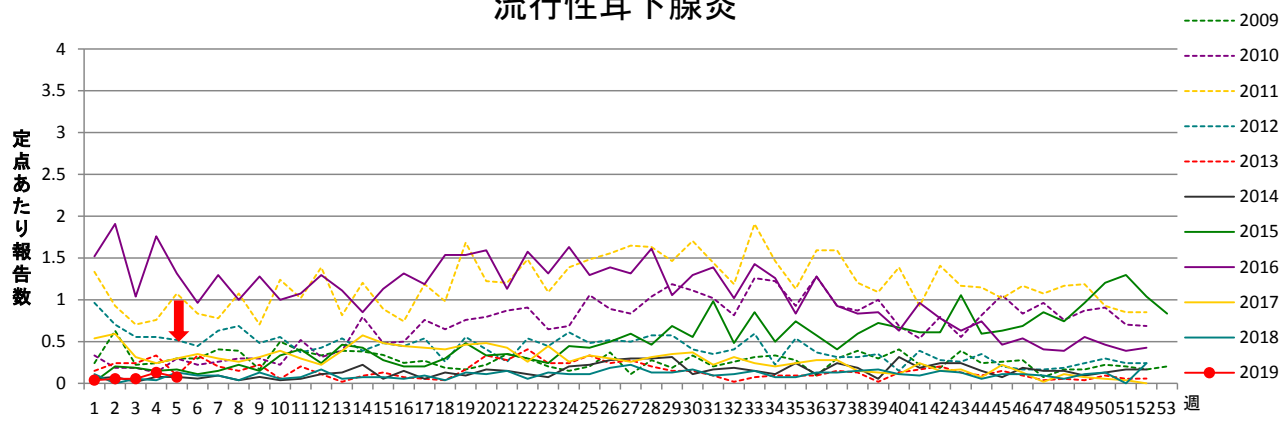
突発性発疹



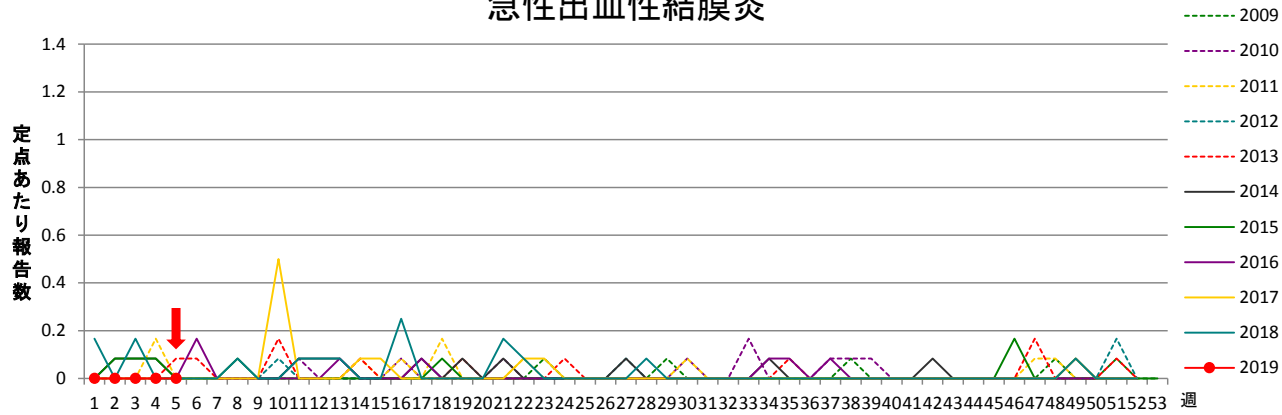
ヘルパンギーナ



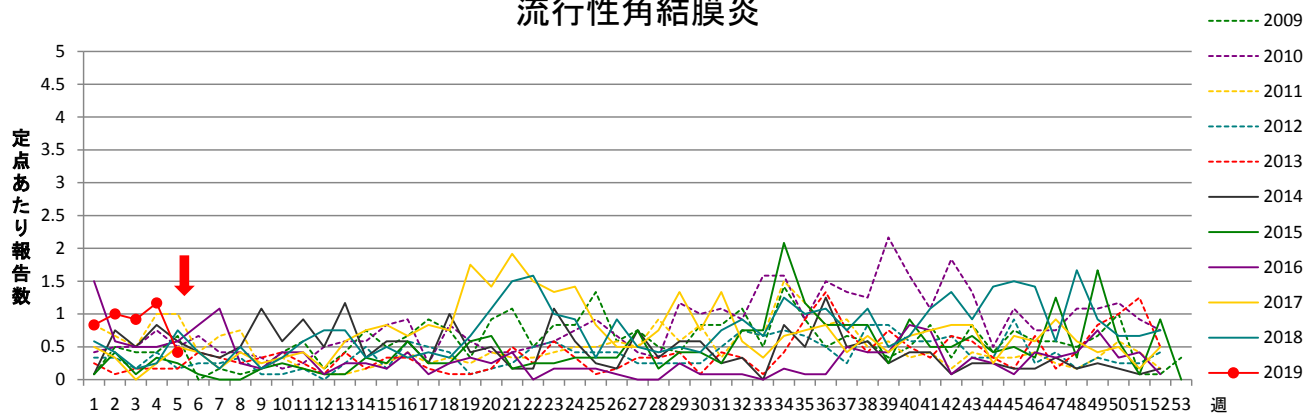
流行性耳下腺炎



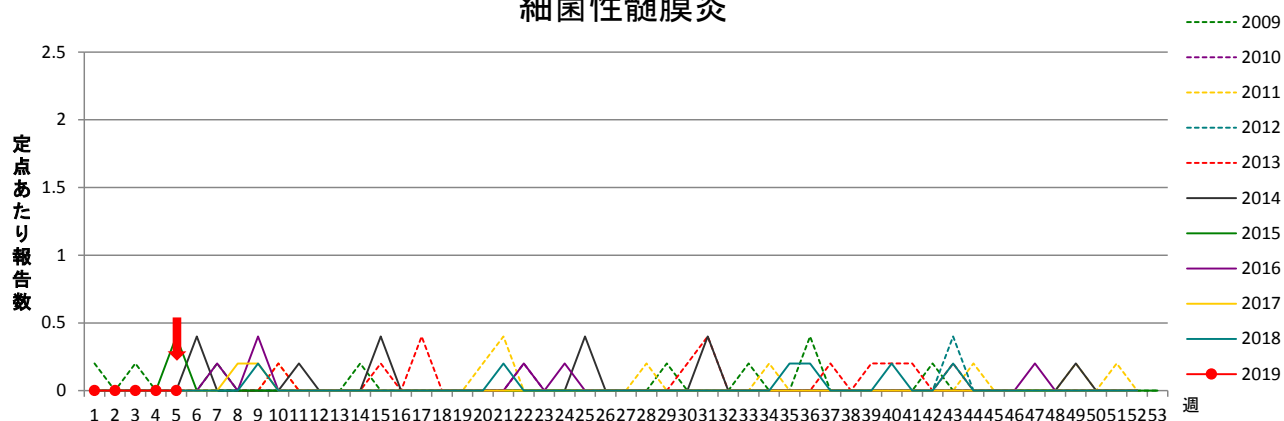
急性出血性結膜炎



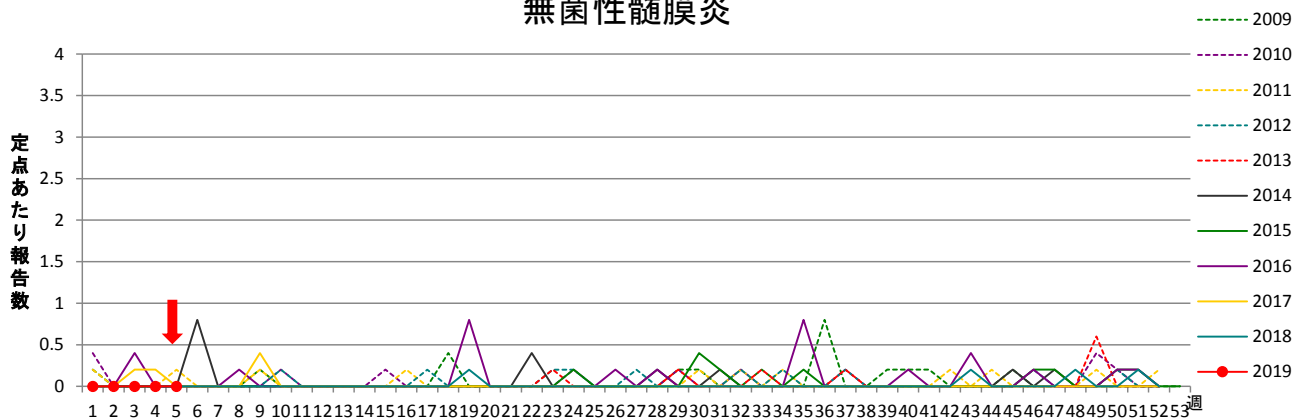
流行性角結膜炎



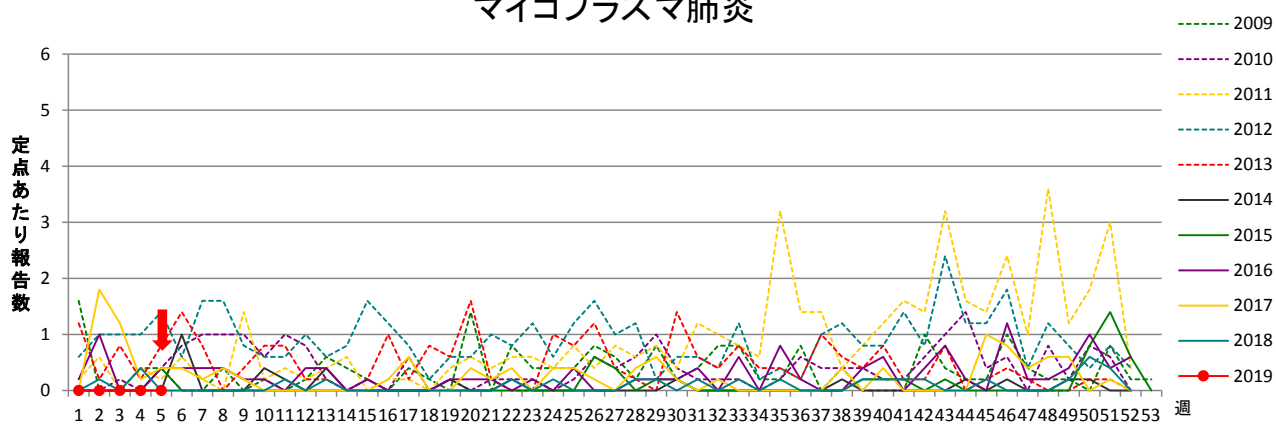
細菌性髄膜炎



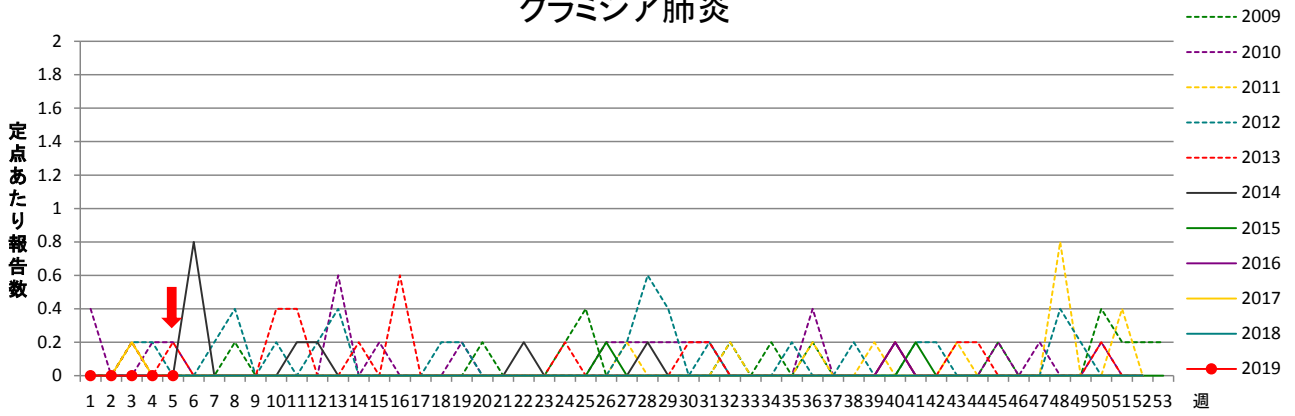
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

